

1. パーキンソン病とは？

発症原因は不明で、現在のところ完治する治療法が分からない病気で、千人に一人の割合で発症し国内に推定15万人の患者がいます。病気の内容は、中脳の黒質で作られるドーパミンという神経伝達物質が減少していく進行性の難病です。患者に著名人が多く（永六輔、モハメド・アリ）、病名だけは知られる様になりましたがその症状まで理解されていない。難病の中でも特殊な症状がありますが他人に感染することはない。

2. パーキンソン病の主な症状と特徴について（症状は多様で人によって異なる症状を呈する）

【運動障害の四大症状】

- ① 安静時の振戦（手足のふるえ）
- ② 無動・寡動（動作緩慢、すくみ足）
- ③ 筋固縮（身体がこわばる、二つの動作が同時に出来ない）
- ④ 姿勢反射障害（前屈、ピサ症候群、小刻み歩行、突進歩行、）→隣の人に寄り掛る、転倒

【非運動症状】（自律神経系の症状）

・嚥下障害・発声障害（「降ります」と大きい声が出ない）・便秘等

【特に、気にかけて欲しい症状】

① ウェアリング・オフ症状（電気のスイッチがオンとオフに切り替わる様な症状）

- ・この病気は、薬の効果がなくなり（オフ）、突然動けなくなることがある。先程まで普通に見えていた人が突然動作緩慢になる。例えば、バスなどに乗車の時は大丈夫でも下車する時に動作緩慢、無動になることがある。
- ・オフ状態の場合に周囲の人の手助けが必要となる。危険な場所で動けないことがあるので安全な場所へ移動させて欲しい。薬を飲むのに手助けが必要な場合あり。

② ジスキネジア

-薬の副作用により手足が勝手に動くことがある。周囲から見ると奇異に見えると思うが、パーキンソン病患者特有の症状であり、行動に時間が掛かることを承知して欲しい。

3.公共交通機関の方へのお願い

- ・病気の現状（オンオフ症状）を理解し、乗客への接し方を考えて欲しい。
- ・乗降車する際に、緩慢な動作（すくみ足を含む）があるので配慮をして欲しい。
- ・乗車時に普通（オン状態）でも降車時に緩慢（オフ状態）の場合がある。
- ・公共交通機関で「他の乗客の手助け」を必要とする場合は、マイク等で呼びかけて欲しい。
- ・その為に、手助けの必要な患者は、SOSカードを携行している。

4. SOSカードについて

- ①赤信号に変わっても、横断歩道上に取り残され、突然動けないことがあるので 新SOSカードを赤色にリニューアルし周囲が気付き易くした。
- ② 他のヘルプカードでは、パーキンソン病の特殊性が表現できない。東京都の「ヘルプカード」中国5県の「あいサポート運動」とは、異なるが共存し連携していく方針。
- ③ 「患者側のカードの携行」と「社会の啓発活動」は一体のものであるので、各機関の掲示板にポスター、チラシの掲示と交通機関の職員の研修をお願いしたい。
- ・「SOSカード」及び「ちらし」「ポスター」のサンプルを参照してください

SOSカード

「SOSカード」

表面



裏面

**安全な所へ移動させてください**

氏名		・体を起こして座らせてください
緊急連絡先		・薬を飲む手伝いをしてください
かかりつけ医院		・緊急連絡先に連絡してください
主治医	病名	<b>パーキンソン病</b>